

### 第3回 開発における地理学

開発地理学の勉強を始めて1年半。私は日本の短大を卒業後半年間のフリーター生活をし、渡英しました。短大時代は国際協力の勉強を中心として英語を学んでいましたが、開発学、地理学の分野での専門的な知識はゼロ…というか高校レベルでストップしていました。そんなレベルでいきなりイギリス人だらけの大学に入ったものだから、そりゃあもう最初の1年間は訳が分からず大変。2年目の前期を終えた今でも大量のリーディングリストと課題に押しつぶされそうな感じ。本気で勉強したいなら欧米の大学に行けとは言われましたが、日本の大学とは比べ物にならないくらいみんな勉強してますね。

私の専攻する Development Geography (開発地理学) はその名の通り、開発学を地理的な視点から捉えるという学問。国境問題、紛争、民族問題、あらゆる問題は地理的なものから発生しているのではないかと、という疑問が私の中にあり、地理学部を選びました。“開発”地理学の専攻に変えたのは大学入学後のこと。短大時代に国際協力を勉強していただけに、第三世界の開発について興味が向いていたし、地理学専攻のみだとあまりにも広すぎて、勉強の焦点がぼやけてくるなあと感じたからです。

キングスカレッジの地理学部は、SOAS の開発学部と提携しているので、2年次から SOAS の授業も取れてしまうのが魅力。一度に二つの大学の雰囲気味わえるなんて、なかなかできることじゃありませんから。キングスカレッジも、SOAS も、同じロンドン大学なのですが雰囲気は全く違います。前者がいかに都会の大きな大学でイギリス人中心のポッシュな雰囲気なら、後者は大変小さく、留学生の多い馴染みやすい雰囲気といったらいいでしょうか。授業のスタイルも大変異なり、キングスカレッジが大人数で教授の講義を聴く、マスメディア式を取ることが多いのに対して、SOAS は少人数制でディスカッション中心に進められます。

あと大学生活は1年と半分残っていますが、地理学部最大のイベントがつい先日行われました。学生のほとんどが参加するフィールドトリップ。スペイン、アメリカ、マルタ島など、自分の興味と予算に併せて好きなところへ参加します。私は開発地理学専攻だったので、強制的にインドへ行かされましたが、もう修学旅行気分で大変楽しかったです。ほぼ初めて行う現地調査、かなりドキドキしました。大人数の学部のため、友達も作りにくく、教授とも仲良くなるチャンスの少ないキングスカレッジ、おまけになんか外国人に対して壁のあるイギリス人たちに囲まれての学生生活ですが、この共同生活をきっかけに(遅いきっかけですが)、一種の連帯感のようなものが生まれたのは間違いありません。

現状をテキストとして進める学問じゃないですか？開発学って。「現在の状況をより良くしていくこと」、これは尊敬する教授が授業で言っていた“開発”に対するコンセプトであり、私が英国で勉強を進める上での基礎となっています。現状をよく知り、誰にとっての開発なのか、皆にとって気持ちの良い開発とはどんなものかを残りの学生生活で更に探っていきたいと思っています。

白木夏子

ロンドン大学キングスカレッジ地理学部